

## 評価基準1:教育理念・目標と人材育成目標

判定結果基準:A.十分満たしている B.満たしている C.改善の余地がある D.改善すべきである

評価項目	評価の根拠	備考	用いる資料例	資料番号
1) 当該教育課程の教育理念と目標は、看護学教育に相応しい内容であり、学生、教員に周知されていること	<input type="checkbox"/> 教育理念・目標の記述内容は確認できたか <input type="checkbox"/> 記述内容は適切であるか <input type="checkbox"/> 明示・公表をしているか <input type="checkbox"/> 学内での共通認識はなされているか <input type="checkbox"/> 当該大学の理念・目標との関連性は適切であるか	学生の目的意識づくりに適していることも含まれる  判断には以下2点を含むこと (1) 看護学教育の位置づけが適切であること (2) 看護学教育課程の発展が期待できること	学生便覧、大学案内パンフレット、当該課程の自己点検評価、当該大学が当該課程を評価した自己点検評価の記述部分など	
2) 当該教育課程で育成しようとする人材像を示し、課程を修めることにより付与できる資格等を公表していること	<input type="checkbox"/> 育成する看護職者像の記述は、適切な考え方と内容であるか <input type="checkbox"/> 志願者に正しく伝わる内容であるか <input type="checkbox"/> 入学後の学生自身の目標形成に有効であるか <input type="checkbox"/> 付与できる資格等の明示は正確で分かりやすいか <input type="checkbox"/> 適切に公表しているか		学生便覧、学生募集要項など	
3) 当該教育課程は看護学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標を含む編成方針であること	<input type="checkbox"/> 教育課程は看護学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標を踏まえて編成されているか	独自の創造性と看護学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標との組み合わせ構造をみる	貴大学特徴の自由記載資料、シラバス	
4) 当該教育課程は自大学の独自性を含む編成方針であること	<input type="checkbox"/> 教育課程は、自大学の独自性をもつ編成であるか	独自の創造性と看護学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標との組み合わせ構造をみる	貴大学特徴の自由記載資料、シラバス	
5) 当該大学の設置主体は、当該教育課程での教育研究活動に対して、それを支える方針や考えを明確にしていること	<input type="checkbox"/> 当該課程の教育研究活動の位置づけが設置主体側に確実に支持されているか <input type="checkbox"/> 当該課程の人材育成にかかわる社会的使命の議論が設置主体の側で十分になされ、価値の評価がされているか <input type="checkbox"/> 学生・教職員を含む学内関係者が当該課程の社会的使命につき共有する(内部議論)努力をしているか		大学案内、学生便覧、など	
1) 評価の概要と今後の展望(自由記述)				
2) 貴大学が意図を込めて取り組んでいること、推奨すべき取り組み、先駆的取り組み(自由記述)				

**評価基準2 :教育課程**

判定結果基準:A.十分満たしている B.満たしている C.改善の余地がある D.改善すべきである

評価項目	評価の根拠	備考	用いる資料例	資料番号
<b>2-1 編成方針</b>				
1) 当該教育課程の編成に、〈看護学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標〉の5つの群が適切に組み込まれていること	<input type="checkbox"/> 教育課程の構成、教育目標に〈看護学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標〉が組み込まれているか	〈看護学士課程においてコアとなる実践能力と卒業時到達目標〉の5群と20項目が適切に組み込まれており、シラバスなどに示されていること	〈看護学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標〉と専門科目とのマトリックス表、シラバス、履修案内	
2) 当該教育課程の編成に、自大学の教育理念に基づいた独自性が適切に組み込まれていること	<input type="checkbox"/> 教育課程の構成、教育目標に、大学独自の看護学教育として、〈看護学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標〉以外の内容が的確に含まれているか	自大学独自の教育内容が、科目あるいは科目の一部として校正されており、シラバスなどに示されていること	シラバス、履修案内	
3) 教育課程全体として体系的性、教養教育・専門教育の構成の適切性が確認でき、明示されていること	<input type="checkbox"/> 看護学への導入が適切にできる体系か <input type="checkbox"/> 学習の順序性が適切であるか <input type="checkbox"/> 学士課程としての教養教育であるか <input type="checkbox"/> 専門関連分野の教育内容はその位置づけが適切であるか <input type="checkbox"/> 専門科目の構成・内容が適切であるか <input type="checkbox"/> 学生及び教職員は共有しているか		学生便覧、学科案内、履修案内資料など	
<b>2-2 授業科目</b>				
1) 授業科目は、看護学の基礎を効果的に教授する科目構成と内容で体系化していること	<input type="checkbox"/> 当該課程の理念・目標に沿った独自の編成であるか <input type="checkbox"/> 各科目の目標(到達レベル)を明示していること <input type="checkbox"/> 臨地実習等体験学習は、講義・演習科目と連動した看護学の学士課程又は看護学の授業科目として位置づけているか <input type="checkbox"/> 臨地実習は、効果的に展開する工夫をしているか <input type="checkbox"/> 看護倫理教育を実施しているか(看護倫理を講義・演習において教授できているか)	学校養成所指定規則の趣旨を教育内容で十分満たしていること 専門の基礎を教授するにふさわしい内容を担保していること 「看護実践の特質」と「その実践能力の基礎」を修得できること	学生便覧、学科案内、履修案内資料、ガイダンス資料・記録、授業科目別シラバス、臨地実習の手引き・しおり・実習要項、委員会活動の記録など	
2) 教養教育の授業科目は、人材育成の目的・目標に沿った教育内容で構成していること	<input type="checkbox"/> 人材育成の基盤として位置づけているか <input type="checkbox"/> 目的・目標を全教員が共有する機会があるか <input type="checkbox"/> 目的・目標の履修指導をしているか	人材育成目標にふさわしいカリキュラムとして編成されていること 目的・目標は専門関連科目と混同していないこと 全教員が目的・目標を共有する機会を具体的に示すこと	学生便覧、学科案内、履修案内資料、ガイダンス資料・記録、授業科目別シラバス、教材開発実績の確認、委員会活動の記録など	

2-3 編入学教育				
1) 理念・目標を踏まえ、編入学者への教育目的・目標が明示されていること	<input type="checkbox"/> 編入生の既習内容・既修得レベルを考慮した教育課程か <input type="checkbox"/> 一般入学者の課程に、不適切な影響・歪みはないか		編入学者の履修規程, 既修得認定基準など	
2) 編入学者の既習内容とレベルを適切に考慮した体系的な教育課程の編成であること	<input type="checkbox"/> 既履修単位の認定方法は適切であるか			
3) 教育目的, 目標, 履修方法などのガイダンス及び履修指導を適時実施していること	<input type="checkbox"/> 具体的なレベルで履修指導をしているか		ガイダンス計画, 実施実績など	
1) 評価の概要と今後の展望(自由記述)				
2) 貴大学が意図を込めて取り組んでいること, 推奨すべき取り組み, 先駆的取り組み(自由記述)				

**評価基準3:教育活動**

判定結果基準:A.十分満たしている B.満たしている C.改善の余地がある D.改善すべきである

評価項目	評価の根拠	備考	用いる資料例	資料番号
<b>3-1 教育実施体制</b>				
1) 専門科目は、「看護学の基礎」を教授するにふさわしい体制が整えられていること	<input type="checkbox"/> 教員は適切に配置されているか <input type="checkbox"/> 効率的な教育実施に向け、専門科目間で有機的連携が図れているか <input type="checkbox"/> 改善措置に向けた取り組みがなされているか	教育内容が精選され、卒業時到達目標が共有されていること	自己点検評価報告、教員構成、非常勤講師担当状況、委員会などの活動記録、自己点検評価記録など	
2) 専門関連科目と専門科目の連携が図れる体制であること	<input type="checkbox"/> 専門科目教育に活かされる有効な連携が図れているか <input type="checkbox"/> 授業担当者は、当該課程上の科目設定目標・目標を共有しているか	専門科目との関連が十分に検討されていること	同上	
3) 教養教育を組織的に実施する体制が整えられていること	<input type="checkbox"/> 授業担当者が、目的・目標の共通認識のもとで教育を実施できる(責任ある)運営体制であるか <input type="checkbox"/> 各科目には、相応しい教員が配置されているか <input type="checkbox"/> 委員会などが組織的に対応することで改善措置に向けた取り組みがなされているか	常勤・非常勤にかかわらず 常勤・非常勤を含めること	同上	
<b>3-2 教育内容</b>				
1) 各科目の教育内容は、到達目標に沿った内容であること	<input type="checkbox"/> 各到達目標は、学習領域に適した内容であるか <input type="checkbox"/> 各到達目標に適した学習方略を用いた教育であるか			
2) 各科目の展開が段階的に関連し、適切に学生に教授されていること	<input type="checkbox"/> 当該科目と他科目との関連性に配慮した編成であり、効果的な学習ができるようになっているか <input type="checkbox"/> 毎年、新しい内容に更新されているか <input type="checkbox"/> 関連科目の教員間での連携が図れているか	教員間で十分連携がとれた教授内容であること		
3) 時代の需要と最新の知見を踏まえた教育内容であること	<input type="checkbox"/> 時代に適応した教育に努め、常に新しい医療・看護へ対応できる教育内容か	教員は常に新しい医療に対応する教育を自己研鑽していること 看護学の進歩、発展に寄与する教育内容であること		
<b>3-3 教育方法</b>				
1) カリキュラム設計に基づいたシラバス(位置づけ、目標、内容、評価基準)が明示されていること	<input type="checkbox"/> 各科目の位置付け、目標、内容、評価は的確であり、シラバスに適切に明示されているか		シラバス	
2) 教育方法に教育効果を高める種々の工夫がとられていること	<input type="checkbox"/> 関心・意欲を引き出す教育方法、技能や手法を学ぶ工夫のある教育方法、看護が対象に及ぼす影響や効果を説明・考え・学習できる教育方法がなされているか	学生が能動的に学習に参加するよう、参加型学習、問題解決型学習や自己研鑽などの学習計画が整備されていること クラスの数や演習・実習グループの人数が適正であること	シラバス、教員、学生の授業評価	
3) 学習・教育の順序・量が適切であること	<input type="checkbox"/> 各教科の学習量、教育の順序は適切か	必修科目と選択科目とのバランスが適切であること	シラバス	
4) 講義・演習・実習の展開が適切であること	<input type="checkbox"/> 講義、演習、実習が有機的に連動しているか <input type="checkbox"/> 講義、演習、実習の展開が効果的に学習できるよう努めているか	講義、演習、実習の実施時期が適切な設定であること	シラバス	
5) 個々の学生の学習状況にあわせた教育支援が図られていること	<input type="checkbox"/> 学生の学習意欲が高まるよう工夫がなされているか <input type="checkbox"/> 個々の学生の履修状況、学習状況を考慮した教育支援がなされているか	担任、チューター制やオフィスアワーなども整備され、有効に活用されていること	シラバス	

3-4 倫理的教育環境づくり				
1) 大学の管理運営の日常活動において、学生等への倫理的配慮が的確になされていること	<input type="checkbox"/> 学生の個人情報保護(成績通知、奨学金、相談カウンセリング、呼び出しなど)はあらゆる面で適切に配慮されているか <input type="checkbox"/> 教職員における個人情報の保護など、倫理的配慮は十分か			
2) 当該教育課程の看護学教育においては、倫理的配慮が確実になされていること	<input type="checkbox"/> 成績の情報漏洩の管理など、個人情報保護等倫理的配慮について、管理・運営上の措置が行われているか			
3-5 臨地実習指導				
1) 臨地実習体験に基づき、理論と実践を一体化した教育を工夫していること	<input type="checkbox"/> 理論と実践との結びつきを十分理解させる努力をしているか	講義・演習科目の教授内容と関連づけていること	専門科目の履修案内、専門科目の授業科目別シラバス、臨地実習要項、臨地実習評価基準など	
2) 卒業時到達目標である看護実践能力(技術・看護実践の理論)の修得レベルについて、確認および指導できること	<input type="checkbox"/> 生涯学習の出発点の能力として、看護実践能力の修得レベルを確認しているか <input type="checkbox"/> 看護職者の生涯の出発点に相応しい指導であるか	学士レベルの教育の集大成の教育内容であること		
3) 臨地実習の過程では、看護対象者との人間関係形成方法の基礎修得が十分教授できていること	<input type="checkbox"/> 人間関係(援助関係)形成過程における個別学習支援をしているか	看護実践能力の基礎となること	自己点検評価報告など	
4) 看護及び看護実習における倫理を具体的に指導していること	<input type="checkbox"/> ケア対象者(看護サービス利用者)の人権を尊重する具体的方法を教授しているか <input type="checkbox"/> 臨地実習の「実習倫理指針」と「手続き」が明確であり、教授されているか <input type="checkbox"/> 実習倫理のあり方、具体的方法については、実習施設側の指導者に認識され、かつ教育される環境が整っているか	専門領域のすべてにわたる具体的教材で、看護倫理教育・指導をしていること		
5) 看護者の提供するケアが、常に方法が開発しつつ実施されていることが伝えられていること	<input type="checkbox"/> 看護実践がいつも個別状況に応じた方法で開発されていることを学生が実感できるような配慮をしているか <input type="checkbox"/> 臨地実習施設で、看護職による実践研究の必要性を伝えているか	看護職のケア行動の意図、看護実践の特徴、日々の創造的取り組みを伝えることができていること 実施に向けた教員側の働きかけの努力がなされていること		
6) 確実に感染症対策と安全管理にかかわる対策に関して学生への指導がなされていること	<input type="checkbox"/> 学生自身及びケア対象者(看護サービス利用者)双方の健康と安全の保護における対策の必要性を学生に指導しているか <input type="checkbox"/> 予防接種などに対する大学側の取り組み体制や経費負担などは十分であるか <input type="checkbox"/> 感染症発症時の危機管理体制は十分か		実習要項での記述・説明など	
7) 実習中の事故に対する対応方法が定められ学生に指導させていること	<input type="checkbox"/> 実習中の事故対策が明示され、学生へ十分説明しているか <input type="checkbox"/> 教職員・実習場の指導者と共通認識しているか		実習要項での記述・説明、事故対策マニュアル、危機管理体制図など	
8) 当該教育課程と実習施設・および地域との連携が適切になされていること	<input type="checkbox"/> 臨地実習委員会が組織され、機能しているか <input type="checkbox"/> 実習施設、地域等と臨地実習連絡会や評価会が適切に開催されているか <input type="checkbox"/> 教育支援者である臨地側の実習指導者と教員側とで、臨地実習の質向上にむけた研修等の取り組みがなされているか	臨地実習の計画、調整、責任の所在、臨地実習場との密接な連携など、臨地実習を行うために必要な体制が整備されていること		
1) 評価の概要と今後の展望(自由記述)				
2) 貴大学が意図を込めて取り組んでいること、推奨すべき取り組み、先駆的取り組み(自由記述)				

## 評価基準4:教育の効果

判定結果基準:A.十分満たしている B.満たしている C.改善の余地がある D.改善すべきである

評価項目	評価の根拠	備考	用いる資料例	資料番号
<b>4-1 授業の評価・効果</b>				
1) 各授業科目の評価は、授業目標・到達目標に沿って適切になされていること	<input type="checkbox"/> 各授業科目の評価基準を学生に明示・説明しているか <input type="checkbox"/> 成績評価への疑問・不服等の受け止めや事後指導の体制は整っているか	学生への説明は、授業科目ごと、授業目標や到達レベルとの関連で実施し、学習意欲を高めることが大切		
2) 評価にかかわる教員は当該教育課程で統一された評価基準を共有していること	<input type="checkbox"/> 教員間で判定基準を共有しているか <input type="checkbox"/> 科目ごとに、授業目標・到達目標の特性を考慮した評価基準を策定しているか <input type="checkbox"/> 当該課程の実績分析に基づき、組織的な議論がなされているか	常勤・非常勤を含む(教員間の共有は、厳正なる評価を導くために不可欠、教員の認識を調整し、確実にする。成績分布などの実績分析データや、教養・専門関連科目の特性を配慮した取り組みが必要)		
<b>4-2 学生の自己評価体制</b>				
1) 教育目標に対する学習の到達状況について、学生が継続的に自己評価できる体制が整えられていること	<input type="checkbox"/> 自己研鑽、参加型に学習態度を醸成した教育がなされているか <input type="checkbox"/> 学生が、教育目標に対する到達状況を自己評価する体制が築かれているか	4年間を通して、参加型学習の促進、ポートフォリオなどの自己評価体制が築かれていることが必要		
<b>4-3 卒業時到達レベルの確認体制</b>				
1) <看護学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標>における卒業時到達レベルの確認体制が整えられていること	<input type="checkbox"/> <看護学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標>における卒業時到達レベルの確認体制が整えられているか	卒業時到達レベルが明示され、教員間、学生間で共有されていること		
2) 教育課程の独自性における卒業時到達レベルの確認体制が整えられていること	<input type="checkbox"/> 教育課程の独自性における卒業時到達レベルの確認体制が整えられているか	卒業時到達レベルが明示され、教員間、学生間で共有されていること		
<b>4-4 教育活動の効果の測定・評価</b>				
1) 修業年限内での課程卒業率は適切であり、必要な対策がとられていること	<input type="checkbox"/> 入学年次別の卒業率分析と初期の目的を達成できない理由の分析、その対策を適切に実施している <input type="checkbox"/> 円滑な修学を促す対策に取り組んでいるか	留年、休学、転部・進路変更、退学などへの必要な対策がなされていること	入学年次別卒業率数、入試選抜方法別追跡、つまづいた時期・単位取得できなかった科目の分析、カリキュラム又は時間割側の課題分析など	
2) 卒業時の免許取得状況が適切であること	<input type="checkbox"/> 入学年次別における各種免許の種類別取得者状況は適切であるか <input type="checkbox"/> 各種免許の国家試験合格率は適切であり、また、不格者への対策は整っているか		入学年次別看護師保健師助産師合格数分析など	
3) 卒業生の社会貢献度が測定され、評価される体制があること(体制が機能的に運営されていること)	<input type="checkbox"/> 卒業生がフォローアップされているか <input type="checkbox"/> 卒業教育支援体制があるか <input type="checkbox"/> 看護職として 社会的責任を果たす上での生涯学習の重要性を認識させる教育が行われているか	看護職の卒後研修やキャリア支援(生涯教育)など、資質向上のための取り組みに努めていること		
1) 評価の概要と今後の展望(自由記述)				
2) 貴大学が意図を込めて取り組んでいること、推奨すべき取り組み、先駆的取り組み(自由記述)				

## 評価基準5: 教育を支える研究活動

判定結果基準:A.十分満たしている B.満たしている C.改善の余地がある D.改善すべきである

評価項目	評価の根拠	備考	用いる資料例	資料番号
<b>5-1 看護学教育及び看護学の研究の実施</b>				
1) 当該教育課程の教員は、それぞれの専門性にかかわる教育及び学術的発展を支える研究をしていること	<input type="checkbox"/> 教育を発展させる研究活動を行い、成果を報告しているか	研究結果をどのように教育に活かしたかの事例が明示されることが望ましい	教員担当科目と授業概要、シラバス、最近5年間の教育研究業績、教材開発例、教育方法開発研究業績など	
2) 研究成果の公表を適切に実施していること	<input type="checkbox"/> 講義・演習・実習などの実施プロセスで直面する課題を、個人及び教員組織で研究し、改善しているか <input type="checkbox"/> 実習施設の看護実践を充実・向上するための研究に取り組んでいるか	FDでの取り組みを紹介する	最近5年間の教育研究業績、FD報告書、現在進行中の研究題目、共同研究者、研究会議事録など	
<b>5-2 看護学以外の教員の研究</b>				
1) 各教員は、それぞれの専門性にかかわる教育及び学術的発展を支える研究をしていること	<input type="checkbox"/> 当該教育を発展させる研究活動を行い、成果を報告しているか	同上	教員担当科目と授業概要、シラバス、最近5年の教育研究業績、教材開発例、教育方法、発研究業績など	
2) 研究成果の公表を適切に実施していること	<input type="checkbox"/> 講義・演習・実習などの実施プロセスで直面する課題を、個人および教員組織で研究し、改善しているか <input type="checkbox"/> 実習施設の看護実践を充実・向上するための研究に取り組んでいるか	FDでの取り組みを紹介する	最近5年間の教育研究業績、FD報告書、現在進行中の研究題目、共同研究者、研究会議事録など	
1) 評価の概要と今後の展望(自由記述)				
2) 貴大学が意図を込めて取り組んでいること、推奨すべき取り組み、先駆的取り組み(自由記述)				

**評価基準6:教育研究組織**

判定結果基準:A.十分満たしている B.満たしている C.改善の余地がある D.改善すべきである

評価項目	評価の根拠	備考	用いる資料例	資料番号
<b>6-1 教育研究上の組織編成</b>				
1) 看護学教育を実施するのに相応しい看護学の教員組織編成となっていること	<input type="checkbox"/> 看護学教育にふさわしい教員組織編成か <input type="checkbox"/> 当該教育課程の目的・理念に即した教育研究組織編成か <input type="checkbox"/> 教員確保のための基本方針,規定が整備され,教員が適切に確保されているか	設置基準との対比 基本方針に準拠した規定等が定められていたら明示する	当該大学及び当該教育課程の管理運営組織図,教育研究組織図,当該教育課程,カリキュラム,各教員の調査書,各授業科目の担当者,教育研究組織の各職位別定員と現有,各教員の持つ資格,教員選考規程など	
2) 看護学教育の教育目標・科目構成を達成するために相応しい教員及び教育支援者の構成,適切な人数となっていること	<input type="checkbox"/> 理念、目標に応じて、講義、演習、実習を展開するために必要な教員構成,十分な数が確保されているか	教育の水準の向上をより一層はかるため,大学設置基準で定められている専任教員数を大幅に超えるよう努めていること		
<b>6-2 教育研究組織の運営</b>				
1) 当該教育課程の看護学教育研究の責任者が,組織上適切に位置づけられていること	<input type="checkbox"/> 当該教育課程の責任者の位置づけは適切であるか <input type="checkbox"/> 責任者は適切に十分機能を果たしているか	責任者の明示と,役割について説明する	責任者選考規程,教員面談	
2) 当該教育課程の教育研究活動に係わる重要事項を審議するための機関が設置され運用されていること	<input type="checkbox"/> 重要事項を審議するための管理機関の位置づけと,実際の機能,運用は適切であるか	位置づけを組織図上で説明する	審議機関の組織上の位置づけ図,教授会・学科会議など審議機関の規程・議事録など	
<b>6-3 教員の業績評価</b>				
1) 教員の教育・研究評価が適切であること	<input type="checkbox"/> 最近5年間における専門分野について,教育上および研究上の優れた実績を有する教員か	教育,研究の業績が自己点検および自己評価で適切に評価される体制であること		
2) 教育力及び教育活動の評価が適切であること	<input type="checkbox"/> 教員の採用・昇任は,教育上の指導能力等が十分に反映された選考か			
3) 研究活動の評価が適切であること	<input type="checkbox"/> 最近5年間における研究上の業績が示され,研究活動が担当する教育内容に反映されているか			
<b>6-4 研究資金の確保</b>				
1) 当該教育課程の教員の研究・教育に取り組むのに相応しい研究費が確保されていること	<input type="checkbox"/> 最近5年間に,当該教育課程の研究費を確保しているか	大学からの研究費は確保されているか		
2) 当該教育課程の教員は,教育研究に必要な外部資金の確保を適切に実施していること	<input type="checkbox"/> 外部資金の運用は適切に実施されているか	科学研究費,外部研究費,文部科学省各種助成金などの確保に努めていること		
1) 評価の概要と今後の展望(自由記述)				
2) 貴大学が意図を込めて取り組んでいること,推奨すべき取り組み,先駆的取り組み(自由記述)				



## 評価基準7: 教員の教育・研究評価

判定結果基準:A.十分満たしている B.満たしている C.改善すべき余地がある D.改善すべきである

評価項目	評価の根拠	備考	用いる資料例	資料番号
<b>7-1 教育力及び教育活動の評価</b>				
1) 教員は、授業を自己評価し、授業評価に基づく教育力向上の取り組みをしていること	<input type="checkbox"/> 教員自身が自分の授業を評価し、受講学生の視点から改善する仕組みがあるか <input type="checkbox"/> 学生による授業評価に基づき、授業改善の取り組みを組織的にしているか		授業評価票、出席状況、用いた教材など 学生による評価結果を用いた改善例など	
2) 教員同士で授業を評価し、改善する仕組みをもっていること	<input type="checkbox"/> 教員同士がピアレビューして自分では気づかなかった改善すべき点を互いに共有しているか		評価表、評価結果を改善に用いた例など	
3) 教員は当該教育課程の教育に十分貢献していること	<input type="checkbox"/> 当該教育課程の教員として、目的とする教育活動に貢献しているか	担当時間においても貢献していること	受け持ちコマ数、受け持ち単位、卒業受け持ち学生数、学生生活、支援内容など	
<b>7-2 研究活動評価</b>				
1) 当該教育課程の充実・発展に貢献できる研究をしていること	<input type="checkbox"/> 教員は、当該教育課程の教育や人材育成の充実・発展を支える有効な研究を実施しているか <input type="checkbox"/> 当該教育課程では、定期的に各教員の研究活動を報告させ、評価する仕組みがあるか		研究論文発表数(発表誌)論文の被引用数、学会発表数(学会名)、各種受賞数、外部資金獲得数、研究員受入数、特許申請・取得数、学会役員就任状況など	
2) 当該教育課程では、教員同士で研究活動をピアレビューする仕組みをもっていること	<input type="checkbox"/> 前記の報告をもとに、その研究活動のレベルをピアレビューし、その後の活動の発展を図る仕組みがあるか		前記報告、数編の論文の査読結果など	
3) 当該教育課程を充実・発展させる研究成果の公表などを適切に行っていること	<input type="checkbox"/> 当該教育課程に関わる研究成果等の公表がなされ、学内・外からも確認できるか			
<b>7-3 大学運営への参加</b>				
1) 教員は、当該教育課程の運営に適切に参加していること	<input type="checkbox"/> 委員会委員など、教員の職位等背景に相応しい運営参加をしているか <input type="checkbox"/> 当該教育課程の研究組織に相応しい役割分担について、方針があり、実績を分析しているか		役職と活動状況、委員会等委員と活動状況、高校訪問、高大連携、模擬授業の活動状況など	
2) 各教員の大学運営参加について、自己評価を組織的に実施し、教員同士で評価する仕組みがあること	<input type="checkbox"/> 教員が大学あるいは当該教育課程の運営への参画状況を自己評価する仕組みがあるか <input type="checkbox"/> 教員同士がピアレビューして改善の取り組みを行っているか		同上	
3) 所属委員会等は、活動状況を自己点検・評価する仕組みをもち、実行していること	<input type="checkbox"/> 所属委員会等の委員同士が活動状況を自己評価しているか		同上	
4) 大学運営参加実績を当該教育課程の責任者が評価する仕組みをもっていること	<input type="checkbox"/> 大学運営参加実績が当該教員の業績評価に反映できる体制であるか		同上	

7-4 社会貢献活動の評価				
1) 各教員が当該教育課程の教員としての専門性にふさわしい社会貢献活動実績を自己評価する仕組みがあること	<input type="checkbox"/> 教員が自己の専門性に基づき実施した社会貢献活動実績を自己評価できるか <input type="checkbox"/> 大学として、専門性にふさわしい社会貢献活動を組織的に評価する取り組みがあるか		公開講座など活動状況、各種審議会委員など参加状況、専門職継続教育活動状況	
2) 臨地実習施設を含め、地域の看護及び看護職者の資質の向上にむけた社会貢献活動が取り組まれていること	<input type="checkbox"/> 臨地実習施設を含め看護・看護職者の質の向上について大学側の取り組み方針があるか <input type="checkbox"/> 上記方針に沿って、組織的に活動の発展に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 上記の方針に沿って、当該課程の教員がそれぞれの専門性に応じた取り組みをしているか		同上	
3) 社会貢献活動状況を外部評価する仕組みがあること	<input type="checkbox"/> 当該課程の教員集団の実績について、活動に関係のある外部者、看護専門職者からの評価を受けているか <input type="checkbox"/> 社会貢献活動などについては、実績を公表しているか			
1) 評価の概要と今後の展望(自由記述)				
2) 貴大学が意図を含めて取り組んでいること、推奨すべき取り組み、先駆的取り組み(自由記述)				

**評価基準8:教育能力開発のための取り組み**

判定結果基準:A.十分満たしている B.満たしている C.改善すべき余地がある D.改善すべきである

評価項目	評価の根拠	備考	用いる資料例	資料番号
<b>8-1 組織的取り組み体制</b>				
1) 当該教育課程にふさわしい教育能力開発方針と実施体制をもっていること	<input type="checkbox"/> 教育能力開発は、組織としての方針があり、取り組み体制があるか	規定・実施計画・実施記録	FDに関する規程・実施計画・実施記録など	
2) 教育能力開発に教員が主体的に取り組んでいること	<input type="checkbox"/> その組織を通じて、教員が当該教育課程の教育能力開発に取り組んでいるか		同上	
3) 教育能力開発に必要な経費が確保されていること	<input type="checkbox"/> 教育能力開発のために使用できる経費が予算化されているか	研修予算書・収支決算書、調査費、研修費、講師謝礼、図書購入費など	研修のための予算書、収支決算書など	
4) 当該課程の教員の教育評価に連動した対策に取り組むこと	<input type="checkbox"/> 授業評価に基づく教育能力向上を目指した取り組みであるか		FDに関する規程・実施計画・実施記録など	
<b>8-2 FDの取り組み内容</b>				
1) 当該教育課程の教員が学士課程教育を総体的視野で教育活動に取り組む適切な研修を実施していること	<input type="checkbox"/> 当該教育課程に関わる教員が、課程全体の中での自己の役割や共同活動としての教育活動について認識を深める研修を行っているか <input type="checkbox"/> 看護学の学士課程教育における教養教育の位置づけが共有できる研修を行っているか		FDの内容	
2) 当該教育課程の教員のFDに関するニーズに即した組織的取り組みがなされていること	<input type="checkbox"/> 当該課程の教員の背景・現状・希望などのニーズ分析を組織的に行っているか <input type="checkbox"/> 当該課程の責任者の考えと教員の希望とを適切に取り入れたFD実施計画であるか		教員の実践研修記録	
3) 看護学の教員が看護実践現場等での実践能力を維持・向上するための研修会の機会が組織的に準備されていること	<input type="checkbox"/> 学生に対して看護実践のモデルを示しうる能力を培う実践研修を行なっているか		教員の実践研修記録	
4) 当該教育課程の教育方法を充実させるための教員能力開発を組織的・計画的に取り組んでいること	<input type="checkbox"/> 研鑽が必要な当該課程の看護実習・看護学教育の課題を計画的・意図的に設定しているか		研修企画・実施記録	
5) 看護実習指導に関わる指導方法の開発研究や研修がなされていること	<input type="checkbox"/> 臨地実習での学生の行動特性に適合させた教育方法の開発や研鑽をしているか <input type="checkbox"/> 実習指導教員に、課程全体の視野で捉えた指導方法を共有しているか		研修記録、教育方法開発事例	
6) 現場側指導者は、当該課程の学生指導能力を高める取り組みができていないこと	<input type="checkbox"/> 実習現場の指導者との密接な協力体制による教育力開発のための組織的連携プログラムをもっているか		実習指導者間の連携プログラム計画・記録など	
<b>8-3 実施成果の評価</b>				
1) 多様な方法による取り組みがなされ、実績を上げていること	<input type="checkbox"/> 教育力向上に向け、適切な回数・研修会、研究会を年間計画の中で実施しているか <input type="checkbox"/> 実施後の評価に基づき、改善にむけた検討がなされているか		年間研修計画、研修実施記録	
2) 参加教員の主体性に基づく評価が行われ、それによる改善措置の取り組みがなされていること	<input type="checkbox"/> 参加者による評価を組織的にしているか <input type="checkbox"/> 改善措置の取り組みがなされているか		同上	
1) 評価の概要と今後の展望(自由記述)				
2) 貴大学が意図を込めて取り組んでいること、推奨すべき取り組み、先駆的取り組み(自由記述)				

## 評価基準9: 施設・設備の整備

判定結果基準 A.十分満たしている B.満たしている C.改善すべき余地がある D.改善すべきである

評価項目	評価の根拠	備考	用いる資料例	資料番号
<b>9-1 施設・設備の整備</b>				
1) 当該教育課程のカリキュラムの展開にふさわしい施設・設備が学内に整備されていること	<input type="checkbox"/> 看護学科目を教授するための演習室・実習室が適切に設置されているか <input type="checkbox"/> 看護学科目を教授するのに必要な機器・備品が整備されているか <input type="checkbox"/> 実習用モデルなど機器・備品の更新が適切に行われているか		面積規模別部屋数・学習機器別設置数、一覧表、近年の追加整備実績など	
2) 当該教育課程の臨地実習に必要な施設を確保していること	<input type="checkbox"/> 臨地実習が適切に実施できるための施設数が確保されているか <input type="checkbox"/> 臨地実習施設にはカンファレンスルーム・更衣室が整備されているか <input type="checkbox"/> 臨地実習施設には、実習用の図書・資料・材料などが整備されているか <input type="checkbox"/> 臨地実習を行うに適した施設の確保は当該大学の責任において実施されているか		学外施設の現状一覧表、種類別実習施設数、実習施設借上げ料・実習謝金制度説明書、施設との契約書等の仕組み説明書など	
<b>9-2 施設・設備の管理</b>				
1) 看護実習室の管理・指導体制が整備され機能していること	<input type="checkbox"/> 看護実習室では、自主学習ができるよう管理・指導体制ができているか <input type="checkbox"/> 看護展開の基本を伝えるにふさわしく常時管理され、使用ルールを共有しているか <input type="checkbox"/> 看護実習室の運用に関する方針が規定され、教員や学生に周知されているか		実習室利用規定・申し合わせ、学生向け利用案内、実習室運用規定、学生への指導など	
2) 医療廃棄物処理法に基づいた安全管理体制が整備され、教職員・学生に周知されていること	<input type="checkbox"/> 看護実習室での医療安全管理対策ができているか <input type="checkbox"/> 医療廃棄物処理設備の使用原則につき、学生への教育ができているか	管理規定・申し合わせ 管理経費の予算化の現状 申し合わせの学生への指導	管理規定・申し合わせ、管理経費の予算化の現状、申し合わせの学生への指導など	
3) 当該教育課程に係わる図書館は、構成員(学生)が十分に活用できるよう整備されていること	<input type="checkbox"/> 配置場所・閉館時間(特に実習との関連)は、学生の利用の便に配慮されているか <input type="checkbox"/> 学生のニーズに適合した図書・資料等が配備される仕組みがあり、整備されているか		図書館案内、実習終了後の使用申し合わせ、学生便覧、実習要項など	
1) 評価の概要と今後の展望(自由記述)				
2) 貴大学が意図を込めて取り組んでいること、推奨すべき取り組み、先駆的取り組み(自由記述)				

## 評価基準10: 予算措置

判定結果基準: A.十分満たしている B.満たしている C.改善の余地がある D.改善すべきである

評価項目	評価の根拠	備考	用いる資料例	資料番号
<b>10-1 経費の確保と適正管理</b>				
1) 当該教育課程に必要な予算措置が適切になされていること	<input type="checkbox"/> 教育に要する経費は適切に措置されている <input type="checkbox"/> 看護学実習に伴う諸経費(施設借料・指導謝金・指導旅費など)の確保が適切か <input type="checkbox"/> 当該教育課程の教員は、教育などに必要な予算措置要求過程に適切に関与できる仕組みがあるか <input type="checkbox"/> 当該教育課程の教員は、教育などに必要な予算の執行が直接できる仕組みか <input type="checkbox"/> 当該教育課程の教員は、教材費・図書費に必要な予算の執行ができる仕組みか		予算・決算書, 予算委員会記録, 活動実績, 施設借り上げ料・実習謝金制度説明書など	
2) 臨地実習等に伴う諸経費の確保が適切になされていること	<input type="checkbox"/> 該教育課程の教員は、実習費用を適切に執行できる仕組みか			
1) 評価の概要と今後の展望(自由記述)				
2) 貴大学が意図を込めて取り組んでいること, 推奨すべき取り組み, 先駆的取り組み(自由記述)				